

専門基礎分野

科目名	解剖生理学総論			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	人体の構造と機能について基本的な理解をする。						
到達目標	1. 看護の実践に活用するための人体と構造の機能についての基本的知識を身につける。 (1)人体の構造と機能のつながり、解剖学的用語を述べることができる。 (2)細胞・組織・器官・器官系・遺伝子・染色体について述べることができる。 (3)内部環境の恒常性と調整、生体のリズム、体熱産生と体温を述べることができる。 (4)神経細胞と組織、中枢神経系、末梢神経系について述べることができる。 (5)骨格系、筋系、感覚器系について述べることができる。 (6)循環器系(心臓の構造と機能)、血管系、リンパ系について述べることができる。 (7)血液の成分と機能、止血機構、血液型について述べることができる。 (8)皮膚の構造と機能、体内の膜、生体の防御機構について述べることができる。 (9)呼吸器系の構造と機能、呼吸のプロセス、呼吸の調節について述べることができる。 (10)消化器系の構造と機能を述べることができる。 (11)泌尿器系の構造と機能を述べることができる。 (12)ホルモンの作用とそれによる調整について述べることができる。 (13)生殖器系、成長と老化について述べることができる。 2. 自らDVDを何度も視聴し、学習する態度をとることができる。 3. 体の白地図を完成することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	免疫について	講義
2	2	解剖生理学総論・I～IVのガイダンス、臓器の白地図の記入	講義
3	2	目標(1)・(2)・(3)ミニテスト 【事前にDVD第1・2・3巻を視聴し学習、ワークブックで予習】	演習(ミニテストと確認)
4	2	目標(8)ミニテスト 【事前にDVD第4・5巻を視聴し学習、ワークブックで予習】	演習(ミニテストと確認)
5	2	目標(6)・(7)ミニテスト 【事前にDVD第6・7・8巻を視聴し学習、ワークブックで予習】	演習(ミニテストと確認)
6	2	目標(9)ミニテスト 【事前にDVD第9・10巻を視聴し学習、ワークブックで予習】	演習(ミニテストと確認)
7	2	目標(4)・(5)ミニテスト 【事前にDVD第11～16巻を視聴し学習、ワークブックで予習】	演習(ミニテストと確認)
8	2	目標(10)・(11)・(12)・(13)ミニテスト 【事前にDVD第17～20巻を視聴し学習、ワークブックで予習】 解剖生理学Iへ繋げる	演習(ミニテストと確認)

教科書・参考図書	ナーシングチャンネルで「人体の構造と機能」を視聴し、学習する。 「解剖生理学」医学書院・「解剖生理学ワークブック」医学書院
成績評価方法	ミニテスト・終了時テストの実施
履修上の注意点	ビデオ学習し、ミニテストを実施。学習の進め方は自分で計画する。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
7年間病院にて看護師として勤務あり

専門基礎分野

科目名	解剖生理学 I			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	人体の構造と機能について基本的な理解をする。						
到達目標	1. 解剖生理学総論にて学習した各項目内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 人体の構造と機能が日常生活行動とつながることを考える機会とする。 3. 人体の構造と機能を理解するための学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	・医学書院:教科書を中心に確認 ・解剖生理学模擬試験の実施 ⇒日常生活との関連させ、自分の言葉で述べられるようにしていく。	講義・演習
2	2		講義・演習
3	2		講義・演習
4	2		講義・演習
5	2		講義・演習
6	2		講義・演習
7	2		講義・演習
8～15	16	解剖生理学 講習会 2日間	講義

教科書・参考図書	ナーシングチャンネルで「人体の構造と機能」を視聴し、学習する。 「解剖生理学」医学書院・「解剖生理学ワークブック」医学書院 講習時使用テキスト 配布資料
成績評価方法	試験80%、課題提出または確認テスト20%、講義・講習会への積極的参加
履修上の注意点	解剖生理学総論の復習をして臨む、DVDを繰り返し視聴する。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
7年間病院にて看護師として勤務あり

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅱ			担当者	朴木 真理		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	形態機能学Ⅰ フィジカルアセスメントと日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能の基本を理解する。						
到達目標	1. 看護の実践に活用・特に日常生活行動を支えるための知識を身につける。 そのために、人の日常生活と関連付けて説明することができるようになる。 (1)生活行動、生きるということについて、内部環境の恒常性から説明することができる。 (2)恒常性維持のための物質の流通を媒体としての血液を説明することができる。 (3)恒常性維持のための調節機構(神経調節・液性調節)について説明することができる。 (4)ストレスについて説明することができる。 (5)外部環境とからだについて説明することができる。 (6)子どもを生むことについて説明することができる。 2. 自分の考えを整理し、わかりやすく伝えることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	日常生活によって生命が維持される GW	講義・演習
2	2	内部環境の恒常性～体液	講義
3	2	内部環境の恒常性～血漿	講義
4	2	内部環境の恒常性～酸素分圧・体温	講義
5	2	恒常性維持のための物質の流通～血液 GW	講義・演習
6	2	恒常性維持のための物質の流通～心臓	講義
7	2	恒常性維持のための調節機構～中枢神経	講義
8	2	恒常性維持のための調節機構～末梢神経	講義
9	2	恒常性維持のための調節機構～ホルモン	講義
10	2	ストレスと恒常性維持 GW	講義・演習
11	2	ストレスと恒常性維持 GW発表	演習
12	2	子どもを生む～遺伝子・ホルモン	講義
13	2	外部環境とからだ～人類誕生時の環境と今 GW	演習
14	2	外部環境とからだ～人類誕生時の環境と今 GW発表	演習
15	2	外部環境とからだ～人類誕生時の環境と今 GW発表	演習

教科書・参考図書	「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」菱沼 典子 日本看護協会出版会
成績評価方法	試験100%、講義への積極的参加を含む。
履修上の注意点	自分の経験、日常生活行動を解剖生理学の視点で考える習慣をつける。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
5年間病院にて看護師として勤務あり

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅲ			担当者	朴木 真理		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	形態機能学Ⅱ フィジカルアセスメントと日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能の基本を理解する。						
到達目標	1. 看護の実践に活用・特に日常生活行動を支えるための知識を身につける。 そのために、人の日常生活と関連付けて説明することができるようになる。 (1) 日常生活行動の「動く」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 (2) 日常生活行動の「食べる」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 (3) 日常生活行動の「息をする」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 (4) 日常生活行動の「トイレに行く」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 (5) 日常生活行動の「話す・聞く」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 (6) 日常生活行動の「眠る」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 (7) 日常生活行動の「お風呂に入る」にかかわる身体の構造と機能について説明することができる。 2. 看護実践に活用できるからだの知識を自分のものとして述べることができる。 3. 疑問が解決できるように、積極的に学習の場に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	「動く」～姿勢・筋の収縮・弛緩	講義
2	2	「動く」～反射・随意運動	講義
3	2	「動く」～骨・骨格筋・関節	講義
4	2	「動く」～日常生活での動き	講義
5	2	「食べる」～食欲・食行動	講義
6	2	「食べる」～消化・吸収	講義
7	2	「食べる」～消化・吸収	講義
8	2	「食べる」～食べたものの行方 GW	講義・演習
9	2	「食べる」～食べたものの行方 GW発表	演習
10	2	「息をする」～呼吸・ガス交換	講義
11	2	「トイレに行く」～排尿・排便	講義
12	2	「話す・聞く」～発声・聴覚・言葉	講義
13	2	「眠る」～睡眠のメカニズム	講義
14	2	「お風呂に入る」～皮膚・粘膜	講義
15	2	まとめ:生活行動からみるからだ	講義・演習

教科書・参考図書	「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」菱沼 典子 日本看護協会出版会
成績評価方法	試験80%、演習評価20%、講義への積極的参加含む
履修上の注意点	からだの知識を看護の実践に活用できるようにする。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
5年間病院にて看護師として勤務あり

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅳ			担当者	病態生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ講師／小貫三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	疾病の成り立ちを知る前提である人体の構造と機能について系統別に理解する。						
到達目標	1. 人体と構造の機能を疾病の成り立ちにつなげられるようにする。 (1) 病態生理学Ⅰとともに学習(6時間) ①循環器系の構造と機能を説明することができる。 ②呼吸器系の構造と機能を説明することができる。 ③消化器系の構造と機能を説明することができる。 (2) 病態生理学Ⅱとともに学習(8時間) ④神経系の機能を説明することができる。 ⑤骨格器系・筋系の機能を説明することができる。 ⑥感覚器系の説明をすることができる。 ⑦内分泌系の説明をすることができる。 (3) 病態生理学Ⅲとともに学習(8時間) ⑧血液・造血器系の説明をすることができる。 ⑨免疫機能の説明をすることができる。 ⑩排泄機能の説明をすることができる。 ⑪生殖機能の説明をすることができる。 (4) 細胞と組織、生体リズムと内部環境の恒常性、体液、代謝系(8時間) 2. 疾病の学びにつながるように、事前学習をして学習の場に臨むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1	2	循環器の構造と機能	講義	医師
2	2	呼吸器の構造と機能	講義	医師
3	2	消化器の構造と機能	講義	医師
4	2	神経系の機能	講義	医師
5	2	骨格器系・筋系の機能	講義	医師
6	2	感覚器系	講義	医師
7	2	内分泌系	講義	医師
8	2	血液造血器系	講義	医師
9	2	免疫機能	講義	医師
10	2	排泄機能	講義	医師
11	2	生殖機能	講義	医師
12	2	細胞と組織	講義	小貫三佳
13	2	生体リズムと内部環境の恒常性	講義	小貫三佳
14	2	体液・代謝系	講義	小貫三佳
15	2	まとめ	講義	小貫三佳

教科書・参考図書	「系統看護学講座 解剖生理学」「系統看護学講座 各成人看護学疾患看護」医学書院
成績評価方法	講義への積極的参加・毎回のレポート80% まとめレポート20%
履修上の注意点	病態生理学Ⅰ～Ⅲの前に系統別の講義あり

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳：7年間病院にて看護師として勤務あり

専門基礎分野

科目名	生化学			担当者	青山 芳文		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	人体の構成成分である化学的物質の性状、その代謝について理解する。						
到達目標	1. 生体構成成分の基本的な構造(元素・分子・細胞)を説明することができる。 2. 生体構成成分(3大栄養素)の代謝を説明することができる。 3. 遺伝子と核酸・核酸代謝を説明することができる。 4. ヒトの遺伝情報の流れ(遺伝子の複製と修復・組換え、転写、翻訳と翻訳後修復)について述べるができる。 5. 内分泌の生化学的基盤であるホメオスタシス、ホルモンについて説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	生化学を学ぶ、代謝の基礎	講義
2	2	糖質の構造と機能、糖質代謝	講義
3	2	脂質の構造と機能、脂質の代謝、蛋白質の構造と機能	講義
4	2	蛋白質の代謝、ポルフィリン代謝と遺物代謝、遺伝子情報と核酸	講義
5	2	遺伝子の複製と修復・組換え、転写	講義
6	2	翻訳と翻訳後修飾、シグナル伝達	講義
7	2	細胞のシグナル伝達	講義
8	2	がん	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 生化学」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖学、生物学、微生物学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。

専門基礎分野

科目名	微生物学			担当者	末永 仁		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、患者の安全や感染予防の重要性を理解する。						
到達目標	1. 微生物の成り立ちを説明することができる。 2. 微生物の種類と性質について説明することができる。 3. 病原微生物の感染のしくみとヒトの生体防御機構について説明することができる。 4. 化学療法の意味・役割を知り、主な化学療法薬について説明することができる。 5. 主な病原微生物について述べるすることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	微生物学の基礎	講義
2	2	微生物学の基礎	講義
3	2	感染とその防御	講義
4	2	感染とその防御	講義
5	2	感染症	講義
6	2	感染症	講義
7	2	病原微生物	講義
8	2	病原微生物	講義

教科書・参考図書	系統看護学講座「微生物学」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖学、生化学、生物学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。

専門基礎分野

科目名	病理学			担当者	末永 仁		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	疾病の病因と病変の特徴を理解する。						
到達目標	1. 看護と病理学について述べることができる。 2. 病気がなぜ、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明することができる。 3. 病気に関わる専門用語の定義を理解し、述べることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～8	2×8回	病因、細胞・組織の障害と修復、循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 病理学」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖学、生化学、生物学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。

専門基礎分野

科目名	治療論			担当者	加藤 貴史／森田 淳一		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	医学的な治療とは何か、診断はどのような過程を経て行われるかについて理解する。						
到達目標	1. 看護活動の実践のために必要な治療方法の基礎的知識を身につけることができる。 (1) 治療法の種類とそれぞれの特徴を説明することができる。 (2) 診断における検査の種類と役割について説明することができる。 2. 診断から治療が行われている過程での看護の果たす役割を考えることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1	2	食事療法・特殊栄養法	講義	加藤
2	2	リハビリテーション・放射線治療	講義	加藤
3	2	低侵襲治療法	講義	加藤
4	2	チーム医療・外科的診断法	講義	加藤
5	2	外科療法(手術療法)	講義	加藤
6	2	外科療法(手術療法)麻酔の知識	講義	加藤
7	2	外科療法(手術療法)炎症と外科的感染症	講義	加藤
8	2	薬物療法	講義	森田

教科書・参考図書	「新体系看護学全書 別巻 治療法概説」メヂカルフレンド社
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	今後の病態生理の学習につなげる。

専門基礎分野

科目名	栄養学			担当者	鈴木 薫子／石川 祐一		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	
科目目的	生体が正常に機能するために必要な栄養に関する基本的知識を理解する。						
到達目標	1. 人間に目を向けた栄養学の必要性を説明することができる。 2. 人間に対する栄養の基礎知識を説明することができる。 3. 栄養状態の評価・判定についての知識・方法を活用することができるようになる。 4. ライフステージならびに疾病ごとの栄養的な特徴を理解することができる。 5. 栄養と食事について看護実践につなげられるように、またチーム医療における栄養ケア・マネジメントへの関心を高めることができるようにする。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1～8	2×8回	栄養学について 人間栄養学と看護(栄養素の種類とはたらき) 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 エネルギー代謝 栄養ケア・マネジメント(栄養評価)	講義	鈴木
9～15	2×7回	演習:SGA 演習:ODA 食事療法一循環器疾患、消化器疾患、腎臓病、代謝性疾患 血液疾患、周手術期の栄養管理	講義	石川

教科書・参考図書	「系統看護学講座 栄養学」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖学、生化学の学習内容とともに知識を身につけられるようにする。

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅰ			担当者	千葉一博(循環器)／松崎寛二・小西泰介・今井章人(循環器)／山本祐介(呼吸器)／嶋崎陽一(消化器)／近藤匡(消化器)		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	
科目目的	疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。 (循環器機能・呼吸器機能・消化器機能)						
到達目標	1. 循環器の病態と診断・治療について説明することができる。 2. 呼吸器の病態と診断・治療について説明することができる。 3. 消化器の病態と診断・治療について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1～6	12	循環器の病態と診断・治療 4時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	千葉
		循環器の病態と診断・治療 8時間(解剖含む)	講義	松崎・小西・今井
7～10	8	呼吸器の病態と診断・治療 8時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	山本
11～15	10	消化器の病態と診断・治療 6時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	嶋崎
		消化器の病態と診断・治療 4時間(解剖含む)	講義	近藤

教科書・参考図書	「系統看護学講座 循環器・呼吸器・消化器」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖生理学Ⅳとともに学習していく。

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅱ			担当者	堀田 総一／北見 修一 他		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。 (神経機能・運動機能・感覚器系・内部環境調整機能)						
到達目標	1. 神経機能の病態と診断・治療について説明することができる。 2. 運動器の病態と診断・治療について説明することができる。 3. 感覚器の病態と診断・治療について説明することができる。 4. 内部環境調整機能の病態と診断・治療について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1～4	8	神経機能の病態と診断・治療 8時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	医師
5～7	6	運動器の病態と診断・治療 6時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	医師
8～12	10	感覚器の病態と診断・治療 10時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	医師／北見
13～15	6	内部環境調整機能の病態と診断・治療 6時間 他＋解剖生理学Ⅳ2時間	講義	堀田

教科書・参考図書	「系統看護学講座 脳・神経、運動器、内分泌・代謝」医学書院 「系統看護学講座 病理学」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖生理学Ⅳとともに学習していく。

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅲ			担当者	医師		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	
科目目的	疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。 (造血機能・免疫機能・排泄機能・生殖機能)						
到達目標	1. 血液・造血器の病態と診断・治療について説明することができる。 2. 免疫機能の病態と診断・治療について説明することができる。 3. 排泄機能の病態と診断・治療について説明することができる。 4. 生殖機能の病態と診断・治療について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1～4	8	血液・造血器の病態と診断・治療8時間 他＋解剖生理学Ⅳ	講義	医師
5～8	8	免疫機能の病態と診断・治療8時間 他＋解剖生理学Ⅳ	講義	医師
9～12	8	排泄機能の病態と診断・治療8時間 他＋解剖生理学Ⅳ	講義	医師
13～15	6	生殖機能の病態と診断・治療6時間 他＋解剖生理学Ⅳ	講義	医師

教科書・参考図書	「系統看護学講座 血液・造血器、アレルギー・膠原病・感染症、腎・泌尿器、女性生殖器」医学書院
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	解剖生理学Ⅳとともに学習していく。

専門基礎分野

科目名	医療倫理			担当者	医師		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	患者の権利やインフォームドコンセントに対する意識が高まっている医療現場で、医療従事者と患者の間を調整するための規範を考えられるように理解する。						
到達目標	1. 医療現場における倫理のあり方について考える機会とする。 2. 患者の権利・自己決定について考えることができる。 3. インフォームド・コンセントの目的を説明することができる。 4. 守秘義務と個人情報について考えることができる。 5. 医療従事者と患者との信頼関係について考えを述べるることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～8	2×8回	医の倫理 法と医療行為の概念 医療現場における倫理を考える ・患者の権利・自己決定権 ・インフォームドコンセント ・守秘義務と個人情報保護	講義

教科書・参考図書	講師指定の教科書(後期購入)
成績評価方法	試験100%、講義への積極的参加を含む
履修上の注意点	生命倫理・医療倫理・看護倫理の講義がある。倫理をしっかり身につける。